HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	地域の伝統文化が地域をつくる(シンポジウム ：2009年北海学園大学市民公開講座住民参加による地域づくり)
著者	寺田，稔
引用	季刊北海学園大学経済論集，57(4)：209-214
発行日	2010-03-25

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

《シンポジウム》2009 年　北海学園大学市民公開講座　　2 日目（2009 年 10 月 11 日）
住民参加による地域づくり

講演１　地域の伝統文化が地域をつくる

寺　田　　稔

１．はじめに

おはようございます。ただいまご紹介いただきました人文学部の寺田です。どうぞよろしくお願いいたします。

昨日は，行政や財政の面から地域づくりについての講演と活発な意見交換がありました。今日の私の話は，昨日の話よりもやわらかい話になると思います。私の専門は，地理学です。地理学は，地域の特徴を把握し，その特徴が形成された要因について考察するのが基本です。今日は，北海道における諸地域の特徴とその形成要因を考えながら，その成果を地域づくりにどのように活かしたらいいのか，日ごろ私が考えていることや現地調査で得たことなどを説明したいと思っています。

それぞれの地域には，地域の風土やそこに暮らす人々の地域への係わりなどから個性豊かな地域の特徴があり，同時に人々の暮らしや生産活動，さらに地域資源などとの関係から長い時間をかけて地域の伝統文化が構築されています。私は，地理学のなかでも農業地理学が専門ですので，農業の生産活動からみた地域の特徴について，さらに農村で暮らす人々の生活や生産活動などから形成されてきた地域の伝統文化を中心に説明したいと考えています。さらに，農業の地域的特徴や地域の伝統文化が地域づくりにどのように関係するのか，「地域の伝統文化が地域をつくる」というテーマで説明させていただきたいと思っています。具体的な説明に入る前に，地域の伝統文化という言葉について，確認しておきたいと思います。地域の伝統文化とは，「ある地域の人々によって習得され，共有され，さらに伝達されてきた人々の行動様式や生活様式の体系そのもの」と考えています。

北海道は，14 の支庁に区分されていますが，それぞれの支庁には固有の地域的特徴があります。さらに，渡島支庁と檜山支庁の二つの支庁が位置する渡島半島を取り上げると，そこには渡島半島としての固有の地域的特徴があります。私は，地域には人間と同様に，地域の顔があると考えています。それは，人間に目があり鼻があり，さらに口があり，これらが一つにまとまってそれぞれの人の顔があるように，地域にも山あり谷あり川が流れ，そこに人々の多様な生活が存在して地域の顔が形成されています。同時に，それぞれの地域には，人々の暮らしと地域との係わりから固有の伝統文化が構築されていると考えています。今日は，十勝支庁と空知支庁を事例に取り上げ，両支庁の農業の特徴と地域の伝統文化について説明します。

２．十勝支庁の農業と伝統文化

それでは，十勝支庁の農業の特徴と地域の伝統文化について説明します。十勝支庁は，北海道の東部に位置する地域です。十勝は，中央部に広大な十勝平野が位置し，その周り

を山地で取り囲まれています。十勝をみる時に大事な点は，三方を山地で取り囲まれ，南側が海に面しているということです。十勝は，北海道のなかでも極めて独立性あるいは孤立性の強い地域であり，それが十勝の大きな地域的特徴の一つです。十勝の独立性あるいは孤立性の強さが，十勝に独特な風土や地域文化を構築した要因の一つと考えています。

十勝の開拓は，明治 16 年に依田勉三が率いる晩成社が帯広市に入植したことから始まりました。その後，明治 30 年に「北海道国有未開地処分法」が制定され，府県から多くの人々が入植して本格的な開拓が始まりました。依田勉三は，十勝で農地の開拓を行うだけでなく，牛を飼育して乳製品を生産し，現金収入を得るために乳製品を函館に出荷していたようです。ですから，十勝では，早くから農産物の加工が行われていました。

次に，現在の十勝の農業について説明します。十勝は，耕地面積が大変に大きく，全道の約 22%を占めています。耕地は，普通畑，水田，樹園地，牧草地などに区分されます。十勝は，耕地面積の 67%が普通畑に利用され，普通畑の占める割合が大変に大きい点に特徴があります。十勝は，販売農家の 73%が専業農家で，その割合が非常に高い点も特徴です。十勝は，決して農家数が多くありません，空知支庁や上川支庁の方が多いのです。十勝は，農家数が比較的に少なく耕地面積が大きいので，大規模な農業経営が展開されています。十勝は，１農家当たりの平均耕地面積が 38 ha で，全国平均の約 22 倍の広さです。北海道の平均耕地面積は 20 ha ですから，それよりも遥かに大きい経営規模です。さらに，十勝は，専業農家の 14～15%が 50 ha 以上の大規模経営です。以上のように，十勝の農業は，専業農家を中心に大規模経営で大型の農業機械を導入した労働生産性の高い農業が営まれています。

十勝では，様々な農作物が栽培され，さらに家畜が飼育されていますが，大きくみると畑作物の栽培と乳牛や肉牛の飼育が中心です。十勝の農業産出額は，全道の 23%を占め，14 支庁で最大です。農業は，農作物を栽培する耕種農業と家畜を飼育する畜産とに大別されます。十勝は，耕種農業部門と畜産部門における農業産出額の割合がほぼ同じであり，両部門ともに 14 支庁で最大です。十勝は，耕種農業と畜産のバランスが取れている農業地域であります。

十勝で栽培されている主な農作物は，小麦，馬鈴薯，てん菜，豆類などの畑作物です。最近，北海道は野菜類の栽培が拡大していますが，十勝ではそれほど大きな拡大がみられません。野菜類の栽培は，上川支庁，網走支庁，空知支庁，渡島支庁などで盛んです。十勝で主に栽培されている小麦，馬鈴薯，てん菜，豆類などの畑作物には，共通する特徴があります。それは，重量農作物であり，原料農作物であるという点です。

十勝は，乳用牛と肉用牛の飼育が大変に盛んです。十勝は，両者の飼育頭数が 14 支庁で最大です。特に乳用牛は，別海町を中心とする根室支庁の方が飼育頭数が多いと思っている人が多いかと思いますが，十勝のほうが上です。ですから，十勝は，乳用牛と肉用牛の飼育頭数において北海道で最大です。十勝は，１農家当たりの乳用牛の平均飼育頭数が 117 頭です。この 117 頭という数値は，EU の平均的規模を抜いています。したがって，十勝は，家畜の飼育においても経営規模が非常に大きいといえます。

次に十勝における農業経営の地域的特徴，すなわち何処でどのような農業経営が展開されているかについて説明します。帯広市を中心とする十勝の中央部では，小麦，馬鈴薯，てん菜，豆類などを中心とする畑作物の栽培が盛んです。十勝の北側と南側の周辺部では，地形や気候との関係から酪農が盛んです。北側の鹿追町や足寄町では，山地や丘陵が発達

しているために放牧地の面積が大きく酪農が盛んです。大樹町を中心とする南側では，夏季に海霧の影響を受け，夏季の気温が低いために乳用牛の飼育を中心とする酪農が盛んです。酪農を中心とする周辺部と畑作を中心とする中央部との間の地域では，畑作物の栽培と乳牛や肉牛の飼育とが混同した農業経営が展開されています。

十勝の農業の特徴は，次のようにまとめることが出来ると思います。十勝では，広大な耕地で複数の畑作物を大規模に栽培し，広大な牧草地で牧草の栽培と乳用牛や肉用牛の多頭飼育が展開されています。まさに，十勝の農業は，広大な耕地や牧草地を利用する「土地資源活用型」の農業であります。さらに，十勝の農業には，原料農作物の大規模栽培と家畜の多頭飼育とが混在するという農業経営上の特質性がみられます。それが，十勝農業の生産活動からみた特徴です。

十勝には，農業に関連してもう一つ注目すべき点があります。それは，地元で生産された農産物を原料に加工食品の製造が大変に盛んなことです。十勝では，大正９年に製糖工場が操業を開始し，てん菜を原料に砂糖を生産するものづくりの歴史が本格的に始まりました。十勝では，古くから地元で生産された農産物を原料とする農畜産物の加工事業が盛んです。これも，十勝の地域的特徴の一つです。現在，十勝には，わが国を代表する食料品製造企業が数多く立地しています。代表的な企業は，日本甜菜製糖，北海道糖業，士幌町農業協同組合合理化澱粉工場，JA めむろフーズ，カルビーポテト，JA おとふけ食品，日本罐詰，北海道クノール食品，雪印乳業，森永乳業，明治乳業，よつば乳業などです。このように十勝では，日本を代表する大手の食料品製造企業が集積して地元で生産された農産物を原料とする食料品の製造が盛んです。十勝では，昭和 60 年代の頃から酪農家の小規模なチーズ工房での手づくりチーズ，特に個性豊かなナチュラルチーズの生産が盛んです。さらに十勝では，地元で生産された豆類や砂糖を原料にお菓子の生産が盛んです。代表的な菓子類の製造企業は，皆さんがよくご承知の六花亭や柳月などです。

以上のように，十勝では，古くから地元で生産された農畜産物を原料に多様な加工食品を製造するものづくり文化が構築されています。ものづくり文化の構築は，単に地域経済の発展を支えるだけではありません。ものづくり文化の構築は，農業の発展にも大きく係わっています。それは，各企業での食料品の製造が新たな農産物の導入，品種改良，栽培技術の向上，大型農業機械の普及，さらに農民の意識改革など多くの点で農業の発展に影響を与えており，この点を重要視する必要があると思います。

農業に大きな影響を与えた例を具体的にあげてみます。例えば日本甜菜製糖は，紙で作られた折りたたみ式の育苗鉢を開発したことにより，収量が高く気象条件の影響をうけにくいてん菜の栽培技術が確立され，てん菜の生産量が安定しました。カルビーポテトは，ポテトチップスを袋に入れた時に壊れにくい最適な大きさを研究し，馬鈴薯の大きさや質，さらに形などの規格を厳しく農家に求め，その馬鈴薯を農家から高価格で購入しています。その結果，栽培農家は，馬鈴薯の栽培技術の向上とより高度なハーベスターの導入が進展し，農家の収益が向上すると同時に農民の農業経営者としての意識改革が進んだのです。

このように，地元で生産された農産物を加工して食料品を製造するものづくり文化は，単に地域経済を活性化させるだけではなく，農業そのものを大きく変化・発展させるという重要な役割を持っていると思います。十勝における地域づくりで重要な点は，古くから地域農業の特質性を背景に築かれてきたものづくりの伝統文化をどのように活かすかということにあると思います。

3．空知支庁の農業と伝統文化

それでは，次に空知支庁の農業の特徴と地域の伝統文化について説明します。空知は，北海道西部の内陸に位置する南北方向に長く広がる地域です。空知は，南北方向に長い地域であることから，一般的に北空知，中空知，南空知に地域区分されています。

空知の本格的な開発は，明治 12 年の幌内炭鉱（三笠市）の開鉱から始まり，石炭の産出を背景に大きく発展してきました。空知における石炭の産出は，平成 7 年に歌志内市の北炭空知炭鉱が閉山したことによって終わりました。昭和 36 年には，炭鉱の閉山をうけて「産炭地振興政策」が打ち出されました。空知の自治体の多くは，産炭地振興政策の支援を受けて多くの工業団地を造成し，企業誘致を展開してきました。各自治体が造成した工業団地には，多種様々な業種の企業が進出しました。その結果，空知の工業には，これだという際立つ特徴はありませんが，逆に様々な業種の工業が集積していることが空知の工業の特徴と捉えることが出来ると思います。さらに，そのことが，空知の地域的多様性をもたらした要因の一つとも考えられます。空知では，平成 13 年に北海道の産業遺産として炭鉱の関連施設が「空知に残る炭鉱関連施設と生活文化」に指定され，炭鉱の施設と結びついた生活文化を活かした地域づくりが推進されています。

空知の農業は，大正 9 年頃から用水池や用水路などの建設が本格的に始まり，農業の基盤整備が進展して北海道を代表する稲作地帯として発展しました。稲作を中心とする空知の農業は，減反政策の導入により大きく変貌しました。空知の農業は，減反政策をうけて農業経営の転換，即ち転作作物の導入が進行したのです。空知に導入された主な転作作物は，そば，野菜類，花卉類などです。

空知におけるそばの作付面積は，全道の約 59％を占め，14 支庁で最大です。そばの主な栽培地は，幌加内町，深川市，長沼町，美唄市などです。

空知で栽培されている主な野菜は，タマネギ，メロン，ネギ，カボチャ，ナス，トマト，葉物野菜類などで，多くの種類の野菜が栽培されています。このように，空知の野菜類の栽培は，ある特定の野菜を集中的に栽培するのではなく，数多くの種類の野菜を栽培している点に特徴があります。同じ野菜類の栽培が盛んな他の地域と比較すると，空知の種類の多さが良く分かります。例えば野菜類の栽培が盛んな富良野市は，ニンジン，メロン，タマネギなどに栽培が集中しています。空知における野菜類の主な栽培地は，岩見沢市，夕張市，長沼町，南幌町，深川市などです。

次は，花卉類の栽培です。花卉類は，昭和 50 年頃から転作作物として空知の水田地域に導入されて栽培面積が急速に拡大し，現在では全道の作付面積の約 48％を占め，14 支庁で最大です。花卉類の栽培は，切り花の栽培が中心で，主にスターチス，デルフィニウム，リンドウ，カーネーションなどが栽培されています。花卉類の主な栽培地は，月形町，岩見沢市，深川市などです。

空知では，りんごの栽培が盛んでした。空知は，古くから余市町や仁木町などと並んでりんごの代表的な生産地の一つでしたが，価格の低迷や労働者の高齢化と不足などにより生産量の大幅な減少が続いていました。近年，空知では，旧りんごの栽培地にりんごに変わる新たな作物として醸造用のブドウの栽培が拡大しています。空知は，醸造用ブドウの栽培に適した地域として注目されています。空知における主な醸造用ブドウの栽培地は，浦臼町，深川市，岩見沢市，三笠市などです。

以上のように空知では，減反政策以降，転作作物としてそば，野菜類，花卉類などが新たに導入され，さらに果樹類の栽培がりんごから醸造用ブドウに大きく変化したことなど

を含んで，稲作を中心に極めて多様性に富んだ農業地域へと大きく変貌しています。空知の農業は，稲作，そば，野菜類，花卉類，果樹類などの栽培と極めて多様性に富んでいます。それが，空知農業の生産活動からみた特徴です。

空知には，札幌市と旭川市に近いという位置的有利性があります。そのために，空知では，早くから農産物の直売所や観光農園が札幌市や旭川市，さらに富良野市などと結ぶ国道沿いに整備され，さらに農家の民宿に併設された農業体験施設などが数多く存在し，農業体験を通じて都市と農村が交流するグリーン・ツーリズムの文化が構築されています。なお，空知には，農業体験施設が約 420 施設あり，14 支庁で最大です。

空知では，日本一のそばの生産量を背景にそば打ち教室や手打ちそばの店などが多く存在し，そばの生産と結びついた食の生産・消費の文化が構築されています。

空知では，地元で生産された多彩で新鮮な野菜類を主要な食材として，直接お客様に料理を提供する「ファームレストラン」が札幌市に近い南部の長沼町や由仁町，さらに南幌町などに 9 軒あり，野菜類の生産と結びついた食の生産・消費の文化が構築されています。

空知は，伝統的に果樹の栽培が盛んな地域の一つです。近年，空知では，醸造用ブドウの栽培に適した自然環境を活かして醸造用ブドウの生産量が増加し，収穫したブドウを使用してワインを生産するワイナリーが空知に 6 軒あります。空知では，ブドウの品種や栽培方法などを学びながらワイナリーを巡るワイナリーツアーが盛んになっており，徐々にワイナリーツアーの文化が構築されつつあります。

以上のように空知には，炭鉱の関連施設とそれに関連した生活文化，そばや野菜類などを生産する多彩な地域農業と結びついた食の生産・消費文化，農業体験を通じて都市と農村とが交流するグリーン・ツーリズム文化，ブドウの栽培とワイナリーを巡るワイナリーツアー文化など多様な地域文化が構築されています。

空知で多様な地域文化が構築されてきた理由は，炭鉱が閉山した以降の多種・多彩な工業の立地や減反政策以降の多様な農業への変貌などに関連した地域社会の多様化，さらに大都市の札幌市に近いという位置的有利性などが結合した結果と考えられます。

以上のように，十勝支庁と空知支庁における農業からみた地域の特徴とそれに関連した地域の伝統文化について紹介しました。そこで，次に地域の特徴と地域の伝統文化を活かした地域づくりについて考えてみたいと思います。

4．伝統文化を活かした地域づくり

地域づくりには，内発的地域づくりと外発的地域づくりがあると思います。内発的地域づくりは，地域の伝統文化や地域資源を活用することによって，良好な生活環境や経済的豊かさが享受できる地域社会の形成を目指すものです。一方の外発的地域づくりは，地域外で立案された計画や地域外で調達された資金を導入して良好な生活環境や経済的豊かさが享受できる地域社会の形成を目指すものです。現在の日本は，経済の低迷と人口の減少が地方の地域活力を沈滞させ，都市と農村における地域格差の拡大が進行しています。このような時代こそ，地域の伝統文化を見直し，地域資源を活かした内発的地域づくりが重要であると考えています。内発的地域づくりは，人々の生活体験を背景に地域住民の誰でもが参加できる住民参加型の地域づくりであり，多くの住民の参加によって地域住民の共通意識の形成と連帯感の強化が期待できます。

内発的地域づくりの具体案の一つ目は，各地域における個々の伝統文化を連携させるこ

とによって個々の伝統文化の価値を高め，さらに他の地域にない個性豊かで魅力的な新たな地域文化を構築することです。その理由は，個性豊かで魅力的な新たな地域文化の構築が地の地域の人々との交流を活発化させて交流人口を増大させ，さらに交流人口の増大が定住人口の拡大へと発展する可能性があると考えるからです。

空知には，数多くの地域文化が構築されています。その多くの地域文化を連携させて，そこから新たに個性豊かで魅力的な空知固有の地域文化を生み出していくことが必要だと思います。そのためには，行政の果たす役割が極めて重要だと思います。行政の果たす役割は，地域の伝統文化や地域資源に関する情報を収集して，その情報を地域住民と共有することによって一元的に管理し，さらに地域住民が情報を有効に活用することの出来る場を提供することです。さらに，地域づくりを推進している地域住民に対して，住民相互の連携を手助けし，技術的・経済的支援の手助けをすることです。

内発的地域づくりの具体案の二つ目は，各地域に存在する地域資源とものづくりの伝統文化をシステム化することによって，個性豊かで魅力的な新たな商品を開発することです。その理由は，個性豊かで魅力的な新たな商品の開発が個々の地域資源の価値を高め，さらに地域資源の需要を大きく拡大する可能性があると考えるからです。

十勝には，ものづくりの伝統文化に関連してさすがだなと思うことがあります。それは，最近の十勝における菜種の栽培の拡大とバイオ燃料の生産です。日本におけるバイオ燃料の開発と生産は，本州で始まり，本州が中心でした。しかし，現在のバイオ燃料の研究・開発の中心は，本州ではなく十勝です。十勝は，小麦の大規模栽培が大変に盛んな地域で，小麦の連作障害による収量の低迷が大きな問題となっています。十勝では，小麦の連作障害を低下させるために，小麦と同様に冬作で栽培が可能な菜種の作付を拡大しています。菜種の栽培面積の拡大は，小麦の連作障害の回復策につながると同時に菜種を原料とする食用油の生産を増加させ，さらに菜種を原料に農業機械に使用することができるバイオ燃料の生産を拡大しています。このように，十勝では，域内で栽培されている農作物と新しい技術とをシステム化させることによって新たな商品を開発し，農産物資源の価値と新たな需要を拡大しています。

5．おわりに

以上のように十勝支庁と空知支庁を事例に取り上げ，「地域の伝統文化が地域をつくる」と題して話しをさせていただきました。最後の部分，急ぎましたが時間がきましたので，これでおわりにさせていただきます。どうもありがとうございました。(拍手)